

幼少期に培った思考力と行動力、 そして地道な努力が最大の武器に

協栄電気興業 代表取締役 上田正昭氏

前身である「葉隠商事有限会社」設立から47年。「協栄電気興業株式会社」は電気・通信・機械の設備工事を基幹事業に業績を伸ばし続けている。その創業者の1人であり、創業時から代表取締役を務めている上田正昭さんに、親戚に預けられて過ごした幼少期や苦しかった創業期のエピソード、そして今と未来について語ってもらった。



■座右の銘は「有言実行」

熊本出身の私がこうして長野で会社を運営させていただいているのは、当社を支えてくださる方々とのご縁に恵まれ、社員たちの頑張りのおかげに思っています。ただ、その中でも私自身は「有言実行」と「努力なくして成功はない」という言葉を忘れることなく、どんな苦しい時も常に前だけを見て地道に歩む姿勢を貫いてきました。

■最も苦しんだ創業期

幼少期も含め、正直お金には苦労してきました。今は会社も経営的に安定していますが、「協栄」の創業期は本当につらかった…。自ら望んだ道ではあったものの、現実問題として資金がないうえに業界からの風当たりも強い。すべてがどん底に思われましたね。でもそこで発揮されたのが、子どもの頃に鍛えられた精神力と行動力、そして負けず嫌いな「なにくそ！」という気持ちでした。

くわえて、有り難いことに私たちを応援して下さる方々にも恵まれました。心強い後ろ盾を頂戴したので、いただいた仕事は全力でこなしました。その結果、苦境を乗り越えて「安くていい仕事を」という新たな業界スタンダードを定着させることに成功したのです。



▲海外でビジネス展開する際にオバマ大統領と面会もした

「仕事ばかりの人生だけど、全部自分がやりたいことだから楽しいんだよね」と、笑う上田社長。ごまかしや嘘を嫌う真っ直ぐな性分は、時に誤解やぶつかり合いを生んでしまうこともあると言う。それもまた、有言実行をモットーとする“努力の人”らしさなのかもしれない。

次回は、有限会社いろは堂 女将 伊藤園子さんです

■幼少期に鍛えられた心

そうした強い精神が育まれたのは、頼れる存在のなかった幼少期かもしれません。私は幼い頃に両親を亡くし、あちこちの親戚の家に預けられて育ちました。だから、人に迷惑をかけたくないという気持ちが強かったのです。やがて自分1人で何でも解決しようと、自然と「今何をすべきか？」を考え行動に移せるようになりました。

同時にちょっとひねくれたところもあって、“ガキ大将”的な存在だったと思います（笑）。でもね、ただ悪いだけじゃなくて、少しでも家計を助けようと小学生の時から働いていたし、家事も手伝っていましたから。たぶん、私の中で働くのはあたり前という感覚だったのでしょうか。おかげで心身ともに鍛えられました。



■目指すは50期50億！

実は私、「50期（完工高）50億での引退を社員に宣言してしまてね。それまでにできる限りのことをしよう」と決意したんです。社員は徹底的に厳しく鍛えますし、新規事業にも積極的に着手しています。なぜなら、私が退いても当社が安定的経営を続け、お客様はもちろん社員にも幸せな毎日を送ってほしいと願うからです。

上田正昭氏（うへだ・まさあき）
協栄電気興業 代表取締役

1945年満州生まれ、熊本県立熊本工業高等学校卒。誰とでも分け隔てなく本音で語り合い、「好きなことを楽しみながらやる」を貫く。会社のさらなる発展と成長を目指すと同時に業界全体の発展と地域貢献にも力を注ぐ。

